統

統

M.25.11.16 ～
M.26.3.5

(挿図多数)

Copyright 日本建築学会

明治二十五年十一月
十六日より

浮世の旅

明治二十六年三月
五日まで

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

浮世之旅
續篇

寺木家居ノ生活

明治五年十一月十六日朱田殿夕暮登可れ
各地ハ山見ノ富ヨリ本川清川町一番地寺木
方ヘ引き移リタリ

Copyright 日本建築学会

第一章 幹部ト仕展

余嘗テ東川町十七番地ニ於テ完璧幹部ト仕展スルヲ三ヶ月余其人ト為リヲ知ル、余ハ彼ト仕展スルノ利ヲ知レリ其実ヲ知ラズ彼モ亦タ然ラハ之ヲ思ハン即チ奮発セ技スル所ニハ曩ノ一小堂ニ仕展シ日夜快活共ニ相競フヲ事フ余カ事業コレヨリ始ロトシテ今ヲ進メタリ

第二章 羽翼ノ養成

余ハ事ヲ仕展スル所ニ三ヶ年以上ナルベシ、余ハ先キニ大事ヲ出テ僅カニ羽翼ヲ生セリ、然レトモ未タ以テ世ニ飛翔スルニ足ラサリシナリ、余之ヲ知レリ即チ大事度ニ入テ潜心ナホ深ク事ヲ研カントス、三年鳴カス飛ハス以テ羽翼ノ成ルヲ待ツ鳴ク時余モ亦タ多望ノ少年ナリ試(コレハ失敗談ナリ)

第三章 両陣ニ奮闘ス

余カ南鮮ニ在リシ時ハ猫ノ鈴ニ即チ京都ノ人ナリ二年ヲ以テ生ル性沈静ニシテ後オリ事ニ当ル僅カニ二年ヲ聞ニ今大臣者就補セリ他日ハ大臣ト

Copyright 日本建築学会

候神経ナラントノ風声アリ恐レヘシ 北隣ノ書生ノ織田貫トモフ豊芳郡ノ人ナリ来明ニ起ラ候事シ深更ニ及フ来タリ寓ヲ一日モ怠ルヲ無キナリ 彼レモ亦タ他日ノ一大政治家乎？

第四章 兄西片町ニ移宿ス

兄西片町ニ移宿ス. 家甚タ素ト其ニ居ニ宮取リケレタ不便ヲ覚エ借後一ケ月十金之ヲ終ヲ家ニ比スレバ五円代シ以テ彼カ小遣銭ヲ作ルニ足ラン乎, 彼ハ書生ノ度ヘ近キヲ喜ベリ知ルヲス 平田ハ遠キヲ如何. 然レニ余ノ寓ト眉目ノ近キニ在レハ余ハ喜ヲ喜ヲ所ナリトス

第五章 山形縣全寓余

十月廿六日陽島典十ニ催ス山田鉄兄, 門田周得, 高橋常一郎ト余ハ大学卒業ノ祝ヲ以テ寄附スルヲアリ 参者凡十数名寓酬ニテ二猫一児嬉然トシテ席ニ待シ歌ヒ且ツ舞フ. 小猫ニ到等眼ヲ細クシテ興ニ入リ夜ノ深キヲ知ルヲス 寓ヲ辞スル時医科四年学生ハ名来リ欲ハ余ヲ知ル隣ヲ以テ更ニ相隣ニ快甚シ 嘗ニ陽ルハ甚何ハ知ルヲス。

Copyright 日本建築学会

第六章　名古屋行（廿七日）

廿七日夜汽車ニテ発シ名古屋ニ赴ク。天王閣ノ修復ヲ見ンガタメナリ。余ハ名古屋ヲ見ル毎ニ第四回、恰モ余ガ第三ノ故郷ノ如シ。況ンヤ亦タ其地ノ優美繁栄ナルト義侠ノ多キトヲ以テ名アルカヤ。況ンヤ亦タ余ハ旅力ヲ以テ第一ノ快楽ト信ズルカヤ。余ハ神心爽快勇気勃々旅車ノ寒風ヲ冒シテ乗ラズ足ラス。余ハ爽々爽々威勢ヨク下等列車ヲ下リテ名古屋市上園町ノ丸文ニ至リ着ハ二十八日午後十時過ナリ。孟ト本子清師ト泊スル所アルナリ。

第七章　丸文楼

丸文ハ名古屋第二ノ旅館ナリ。印ハ広ク敷ノ鉄琴楼ニ次クモノナリ。家ハ閑雅ニシテ優美ナリ。客三四十人ヲ容ルヘシ。主人ハ氏ハ毎年数ヶ月間ノ滞在アリシノミ。主人今亡シ。寡婦富ヲ増ス年三十斗ヲ餘リ敏捷ナラズトスル。婢女四名年十八九ヨリ二十二三ニシテ美ル皆甚タ醜ナラス。客ニ接スル亦タ甚タ親ナラス。余ハ新聞ノ報ト新聞ノ外責ト、燈ニ借リタル肩掛トヲ以テ風呂ヲ問ヘ今ヤ一箇ノ紳士トシテ和等ノ待遇増ケリ

Copyright 日本建築学会

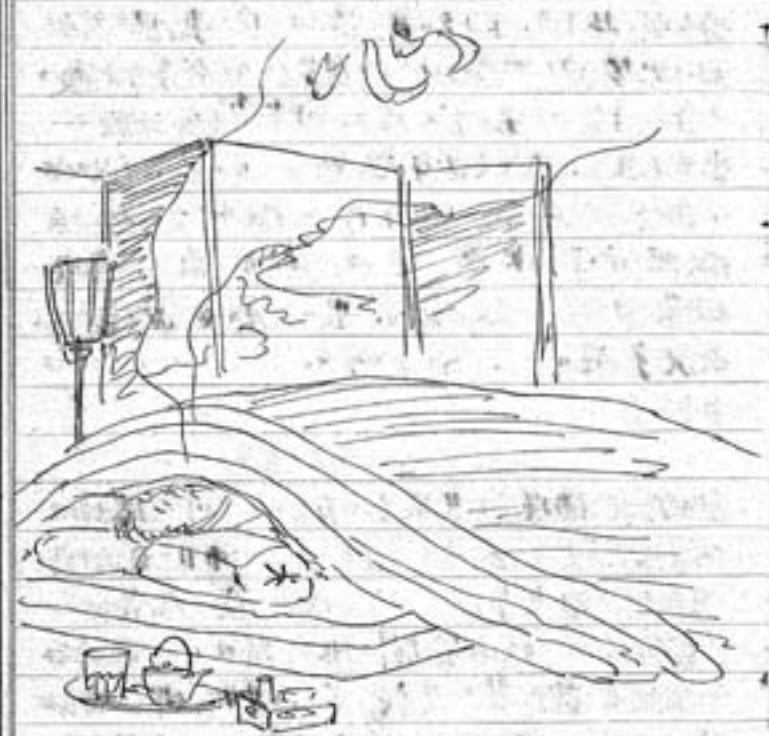
第八章 故手ノ導師ヲ愛ス

名古屋ニ故手多シ余ト知音ヲ結ブモノ日ク東，日ク竹谷，日ク中村，日ク加藤，日ク河嶋等ナリ竹谷年二十有八才少シク才気アリ余ト屢々談ス．彼等ノ先生ト称シ学士ト敬フ．倫敦ニ留学シ熱心ニ研究シタルナリ．蓋シ或ハ自ラ為ニスル所アルナリ．年配ハ十歳以上之ニ接ス，微服ノ中常ニ洋服アリ是故ニ彼余ヲ欺ス．洋服ノ中常ニ自家アリ是故ニ彼余ヲ環ル．廻世通ニ盗ニ変テ能事弱ルト云フベキ歟哉々．

第九章 川文楼ノ盛宴

名古屋ノ世酒楼多シ其最モ有名ナルヲ川文楼トス一夜余ト東，竹谷，東ト仝播ニ酌ム．酒肴ハ有義ナリ之ヲ東都ノ粋雅華ナルニ比シテ優ルヲ優ニ好等ノ比ヲ以テ少劣ニシテ一妓西髪間ヲ排シテ跪坐シ一礼シテ室ニ入ル妓名ハ鶴助豊ハ其顔，？ハ其肌，婢ヲ初ム西髪ヲ以テ比ス桃夭ノ如ト云フ．愛嬌妓姿之ヲ西京最高ノモノニ比シテ張ラカヘリ．已ニシテ絃鳴ヲ歌舞始ル．余弱ト魂去リ眩惑ヲ強テ沈着ノ装フ．夜深ケテ酒盃ヲ行ル．客皆泥酔番後ヲ輔セス．夜半僅ニ旅宿ニ帰リ沐浴一番寝ニ就カントスル余カ夢魂ハ尚ホ今夜何レニ遊フ．

Copyright 日本建築学会



第十章 獨尊

已ニシテ水ヲ伝ヒテ神戸ニ赴ク。宿リタル汽船上ニ留ル。今ト余ノ眼上ノ痛ヲ失ヒタリ。余一思ヒノ世短ク遠ク、婦女等交々来リテ雑談ヲ挑メス。彼等ハ余等ヲ知音ヲ品評セリ。ハ以テ余ノ後ロヲ盛ル。ハ以テ余ノ歓心ヲ買ハント欲スルニハ似タリ。疲ノ為及ビ雨ノ重キ痛飲シ自ラ以為ラク余ハ一箇ノ好紳士ナリト。婦女ノ輩ヲテ戯レニ色ヲ弄ス。余甚ダ其技ニ長セスト雖モ余ノ一跑ノ風采、就中之ヲ補ハ殆ト沈酔シテ寝ニ就ク。衾温カニシテ夢濃ナリ。記シテ以テ自慰ノ度ヲ示ス。

第十一章 熱田

熱田神社ヲ巡礼スルヲ一番渡通ノ伊勢久ニ一泊ス。伊勢久ハ余カ例年ノ旅宿ナリト雖モ其体裁ノ不良ナルヲ実ニ甚シ。先文ヲ去リ宴ヲ重ン検ント帝城ヲ去リ田舎ニ行クカ如ク花園ヲ出テ、剪刈中ニ入ルニ似タリ。三盃ノ酒素ナリトイヘトモ其味甚敢ノ称スル能キヲ如何セン。三膳ノ食実ナリトイヘトモ其味甚敢ノ称スル能キヲ如何セン。翌日神社ヲ参拝シ大ニ写生スル所アリ。午後後ニ熱田ヲ去リ豊橋ニ向フ。

Copyright 日本建築学会

第十二章 豊橋ノ盛宴

我故田中茂七郎ハ陸軍工兵軍医ナリ豊橋分営ニ奉職ス
余之ヲ訪フ余快ト歓見ルカ為ニ立ノ間ニ胸襟ヲ
開キ快活痛飲ス映愈々加ハリ殆ト相共ニ一絃
撥ニ聲リ歌ヒ盃ヲ更メテ朗ニ謡歌間々舞飲シ殆ト
沈酔ス。後ニ之ヲ聞ク余ハ日ハ三絃ノ胴皮ヲ破リタリ
トカシテ余ハ実ニ之ヲ知ラズ。此夜泥酔ヲ扶ケ
ツツ旅館ニ帰ル。豊橋ヲ去リテ東ニ向フ。

第十三章 帰京

昆人決ス前後ノ辯ヲ問シテ浜名ハ接ケ東
生ニ向フ一二日中皆ナ花ノ由ヲ知ラズ無キ
ナリ車中余ハ一瞬ノ慢夢ヲ覚ヘタリ。而シテ余ハ
夏多川浜松ヲ過キ大井川ヲ過キ静岡ヲ過キ
ヨリ知ラザルナリ。東天紅ノ時酔全ノ醒ノ身ハ
足柄山中ニ在ルヲ知ル。知ラズ余ハ何カ
自分ノ強人ノ手ニ奪ハレシカ。十二月四日ナリ。
十日新橋着。

Copyright 日本建築学会

第十四章 立身ノ緒

小島富之氏余ヲ優スルノ厚シ嘗テ美術学校長岡倉覺三氏ニ逢フ余ノ人ト為リヲ語ル岡倉余ヲ呼テ強リ大ニ余ヲ信ス即チ余ニ乞フ美術学校嘱托講師タリ且ツ全国宝物取調局ノ顧問タランコトヲ以テス余大ニ喜ビ之ヲ諾ス，越テ一日余彼ノ方ノ彼命ル富ヲ張リ余ト共ニ酌ンデ大ニ快語ス彼一ニ余ヲ武人ニ似タリ余即チ或ハ謙限ニ或ハ謹直ニ而シテ毫モ傷優ノ色ヲ出サス余カ立身ノ緒ナレバナリ

第十五章 筆砲ノ應用

蓋シ余素ト筆砲ヲ好ミ其一タビ卒業論文ヲ草スルヤ名声嘖々人ニ伝ヘテ噂々高シ辰野翁ヤ小島翁ヤ石井翁ヤ等友皆翁ヲ賞カサルモノハナシ余アルカニ．コレ余カ名声ヲ得ルノ始ナリ．余筆砲ノ効力用ヲ知ル即チ一論文ヲ工学会ニ一論文ヲ造船学会ニ．一篇ノ墨文書ヲ社寺局ニ一篇ノ墨文書ヲ岡倉覺三氏ニ而シテ又一篇ノ報告書ヲ作リテ辰野ニ呈シ乗テ日本建築研究ノ結果ヲ発ヤセントス．好シ故筆砲来レ．余汝ト共ニ相携提シテ離ルヿ無カラン。

Copyright 日本建築学会

第十六章 報恩ノ微志ト

上杉伯耆侯ノ地ニ其邸ヲ起サントス計画既ニ先マル余往テ其任ニ當ラントスルヲ見テ実ハ余カ研究ノ為ニシテ素テ多少ノ報酬ヲ望ムナリ、家扶曰ク學費負担スルニ餘リアリ然レトモ資金餘裕ナシ軽率ナルニ堪ヘズ如何ト余辞退シテ曰ク何ソコノ事アランヤ余カ未熟ヲ以テ敢テ大胆ニ君公ノ邸第ヲ計画ス素ヨリ旧君ニ對スル微志ノ止ムベカラザルニ由レバナリト家扶大ニ感歎ス

第十七章 動陣ノ準備

余如何ナル生徒ニ向テ講義スル便ニ達ヒ心窃カニ危フム、先ツ筆ヲ執テ其梗概ヲ認メ書ヲ再三ニシテ順序正シカラス、僅カニ稿ヲ脱シテ之ヲ復稿ス疎脆ヲ可カラス、余為ニ此ヲ費ス甚シ其秘密ノ説中夢ムル所果シテ如何、コレ時余カ義塾ノ教場ノ有様ヲ聞テ自ラ笑ヒ小胆ヲ笑フ、然レトモ人皆勇ノ如キモノアルナリ、少シク慣レレバ則チ直チニ平々然タランノミ可ナ、

Copyright 日本建築学会

第十八章

摘雲亭ノ盛宴 F. E.

十二月十日摘雲亭上ニ彰工博士ヲ為ス為ニ重垣博士ノ送別会ヲ開ク所スルモノ十四名内ニ紳士気取クナリ。金貴色内ニ二猫ヲ飼ス 信夫ト云ヒ久米路ト云フ久米路ハ美ん容色アリ気品アリ信夫ハ下ル子一等ナリトス。作間綱左衛左モ雄吐開説ナリ。集歌ヲ始メ退蕃ス余日会ヲ捕ヘ大ニオブラシメント欲シテ果サス空シク家ニ帰ツテ寝ス記ス

第十九章 江原那珂 石井 F. A. E

江原ヲ問フテ酒肴ノ事ニ設ケス彼シ忘れ去ル長長ナリ。那珂ヲ問フテ酒肴ノ事ニ関ス彼レ忘れ去ル振ハサルノ徴アリ。石井ヲ訪フテ美男ノ事ニ推ス彼シ忘れ去ル幣陋陋ナリ生徒ヲ作法ニシテ乱雑ナリコレデモ勝負撮れかト呟シマルノ徒ナリ。

一日見ヲ訪ヒテ馳走ヲ受ケ江原来客ヲ呼ハサ将棋ヲ戦ハス中ニ酒ト江原ト出デ飯ヲ小使ヒテ食ん

Copyright 日本建築学会

十二月十三日(火)

義務学校に赴き午後満足する。午後より翌日の講演準備に従事す。夜に入りて少し休むべきに、明日の講演に当つて明日の建築に留意すべしと。然れども之を日の建築を研究するの時間にて暮りつへきなり。

十二月十四日(水) 晴 A.

義務学校に赴き、午後あるべき日暮洋服屋来れり。即ち一着を注文し去る。建築学会に赴く。関西支部の名称を建築学会と改む。帰途渡辺と弥田の今宵と飲む大に快を覚えり。酔一回酔醒して家に帰り寝に就く。

十五日(木) 晴 A.

午前建築史の講義に終る。午後図画の事務を認む。新に日の建築保存の意見書を作る。日暮病院にて内お産見る。夜に学問の徒達と愛ケ丘に登る。夜お産見る。夜に雑談し寝床を得て家に帰れり。十時まで少しく書見して寝に就く。

Copyright 日本建築学会

十六日（金） J. E.

午前登校 水谷先生ニ逢フテ大ニ有益ナル注意ヲ与ヘラレタ
午後家ニ帰リテ講義ノ準備ヲナス 日暮 武庄氏
即来ル 和見ヲ訪ヒ嬢ト共ニ飛野氏ニ見ヘヘキ写
真ヲ乞フ（飛野氏妻母ヲモ一ツ） 帰宅後寫真ヲ
伸ヒ雨ヲ冒シテ家ヲ出ヲ 御ノ鳥定ニ飲食シ
微酔ヒテ家ニ帰リ寝ニ就ク。

十七日（土） 七. A.

午前登校 午後ニ付美術学校ノ出キ次ヲ問
倉崎氏ヲ訪フテ長谷川氏ヲ尋ス 彼ノ如ク忙ハル故
ニ中条ノ宅ヘ入リ 独リテ室ヲ通ヲ置テ快談スル
好刻 彼ノ忙ノ間より 彼ヲ仏教ニ関スル論説ヲ
陳述シ 終ニ余カ暇より問フニ至リテ 余モ強直
器格ヲ守リ寡言ヲ多ク 然レド 酒ノ勢カ終
ニ余ヲ動カシテ 余ノ暇より白状セシメタリ 同倉ノ妻女
父君ノ令嬢等皆一ル余ト初見ノ挨拶ヲ通ス 田
倉ノ意益シ其娘ヲ余ニ配セントスルモハ女ハシ 強ヒ
テ油ヲスベクラズ 彼ヲ辞シ帰ニ興ニ入リ余
ヲ強ヒ飲食シテ 八時ヲ過ノルヲ知ラス 帰宅スル
ベキ庄氏即氏来訪ス 十時相去レ 一飯ヲ
終ツテ家ニ帰ル 時十一時ナリ

Copyright 日本建築学会

竹本後二助

十八日(日) 七. 三.

午後早朝沐浴ス洋服ハ未ル九時家ヲ出テ笠ヲ
国重氏ヲ訪フ面会マルヲ得ズ次ヲ目向ノ細川邸ニ
到リ工場ヲ巡覽シ本多、三橋等ニ逢ヒ大ニ得ル所アリ
午刻一度帰宅一時半家ヲ発シ鞄ヲ刺ク平田ニ赴キ
清祝詞到日暮家ニ帰ル 晩食後其庄助ヲ訪フ
彼小林氏ハ嘱托ニヨリ一枚金障ヲ升画セリ小林
ハ素術教授生徒ニシテ余ヲ知リ余彼ニ其升画
ヲ助カル。夫レヨリ式ト其ニ素竹ニ絵キ之ニプリンテ綾之
助ヲ聞ク 助之助 鈴ヲ先ス然又ヲ驚然音
声清達ナリ余ヲ驚走ヲ魂狂フ余ハ之ニ九十点ヲ
与フ小政ノ守宮調正流トスルノ外ナシ其調子ノ整
ヒタルニ東京ノ三絃ノ劉度ルヲ以テス余感歎ヒ
魂去ル余ハ之ニ九十五点ヲ与フ 綾之助ハ之ヲ半年ヲ
ニ比ベ上達スル所ヲ見ル容貌ハ彼ノ艶事ニ不及
セリ余ハ寧ロ彼ニ八十八点ヲ与ヘントス 帰宅式ト共ニ
ヲ飲ム 大ニ酔上ノ陶ヲ出テ乗テ建室ニ入ル手淫
ヲ吸フ彼余ヲ伝スル所ノ興長ヲ且ツ深シ十一時
家ニ帰リ鞄ヲ寝ル就ク。母ヲモ立シ冬ノ夜寒。
衣ヲ脱セシ天皇サヘアルニ。之ハ又嘆キ食ノ中ニ濃
ナル夢見ル人ヨ。哀シ吾人ノ弱点ハ今彼ノ身ニ知ルシ
又夢ハ試ヲ登ノ証ニモアラズ。

Copyright 日本建築学会

十九日（月）

八時起ル九時ニ美術学校ニ行ク小林氏来ル余輩ハ飛行ル所アリ終テ大ニ美術学校ノ内幕ヲ問ヒ心得置ベキヲ知ルヲリ午後ロッカ堂ニ赴キ明日ノ講義ニ必要ナル書類ヲ求メ三時家ニ帰リ講義ノ準備ヲナス夕食ヲ終ル片岡氏来訪ス珍客ナルハ大ニ笑果ヲ問ヒ種々ノ種々ハ人物論、事件論、北ヨリ斉大出論ニ及ブ又事務ニ渡ル余独ト脳マンカアリシカハ日ノ事務ヲル如ク果サス十時就レリ明ル直チニ起床ニ後ヲ十一時出発ニ発キタリ

二十日（火）晴、暖、

早朝起キ出ツ美術学校ニ行ク講義終リ岡倉氏金ヲ喝破スル所アリ正午家ニ帰ル、昨ハ勉強就ク所ニ上ル即チ今日来ル所ヲ強ヒテ午ヨリ裏ニ及ブ余独ツ豊岡ニ伴ヒ共ニ夕食ス彼女壱氏ニ逢フ所アリ七時半ヨリ家ニ帰ル翌日ノ課題ヲ修ム十時ニ至リ休憩一寸畢ヲ所ヲ学ブ所アリ、日記ヲ書シテ寝ニ就ク時ニ十一時半ナリ

Copyright 日本建築学会

二十一日(水) 九. E.

凍氷の寒天風に余の寝床を排して見れば義術豊後の一事業なれば、正午業を終り悠々宿の一室を横断し日光の後ろを微睡とはなれば小田切ナスとタメレガンエケフト号セラルル一小才子来訪ス余ハ之ヲ通シテ日暮に至ル夕食後紙表者に話ス

阪東馬 (青姫)	80.	小袋	60.
小阪 (佐倉)	95.		
孫之助 (時花形)	90.		

後者は恍惚ト然タル處女然タル可愛味ヲ失ヒカモ都ヲ美人ノ数人女タル人格ヲ具ヘタル余ハワクト彼ノ風采ヲ見テ大笑スルノ彼ハ実際美人範疇ニ入ルモノヲ得ルナラン。帰宅小田切ト共ニ きゾウニ入リ飲食シテ夜有名等ニ入リ余彼ニ有名等ヲ尽クセンカ為ニ彼ハ服ノ色アリシナリ、彼ハ彼ハ然ルニ新タ彼ハ余ハ(日本記者)彼ノ彼ハラニヲ知ルナリ。微酔ニテ映ヨリ帰リ十一時寝ニ就ク食事ハ味ハ美ナル何ヲ表シ温ル、文ハ華厝国ノ但ハ南柯郡カ、アレ蝴蝶カ飛ブ、アレ〈何ヒヤヤク白鷺ノ酔フ頃、陰ヤテ碎ケテ踊リ物思フモ哀レナリ。

Copyright 日本建築学会

二十二日(木)

午前大堂内ノ整頓ス午後内務省ヘ出ル国色ノ困難ス但色三色ノ旗ト白バラノ腕章ノ役ノ為ノ出ル所甚ダ宜シカラズ有志ノ陸海軍計一名宛ヒリ帰リ来ル山岡ノ旗ノ死ス中山ノ旗ノ在ス次ニ見ノ旗ト鉄旗ス今ノ不国無色ノ者ノ盛ノ会ハ其一部十三名ノ得テ心大ニ喜ヘリ鉄旗略到ル帰宅又ノ北川氏ト鉄旗ノ後援ノ為ノ絶ス十時沐浴十一時寝ニ就ク

二十三日(金) 晴

午前大学ニ行ク木下氏ニ会ハスシテ空シク帰ル午後銀座夜ニ入ツテ散歩ス出カケ大工場ニ出入シ時計下ハキ等ノ買物ノ為ニ帰ル九時出発ノ体ニ其ニ牛庭ニ赴キ大ニ快活歓飲シ帰宅後就ク

Copyright 日本建築学会

二十四日(土)晴　E.

午前頃水来る午後某絵画会に出き生徒の家を
巡るつもりで出せんでいた一名に余大と失望し余校長と
計画をして欲しが異りて再び失望して家に帰り夫と
昼食を終わり出き展望に登りて大と義絵画及び関
沢嘉兄を叩き博士の会の参り行正と出発して日
の間家に多く人がいたので独りで絵を終始せずに物
と余大と悔んで所アラ大に満足して家に帰り夕食後
内村先生宅へ出き

小豚	一疋	60
鶏もも	酒瓶	80
小豆	判官切腹	95
鶏もも	朝鮮日記	95

帰宅 雷鳴と出き大と快談 放言し午飯昼食を
興奮して長し十一時家に帰り十一時お寝に成
る。

Copyright 日本建築学会

二十五日(日)大.

午前 堤泰治氏来訪 午後日ノ本石炭ヲ訪フ 彼レ近津ヘ出セタルトナス. 帰宅ヲ訪ヘバ小林川分島ヲ三角地ヘ宅ヲ持ツエトナリ. 中村弘一ヲ訪ヘバ不在 切角ハ者ヲ大内ヲ訪ヒ二ヶ日四名地ニテ久シ振ルヲ以テ大ニ快談ス 興味尽ル長シ 余ハ彼ト彼此ノ隙得ル所極メテ多シ 彼酒肴ヲ置テ余ヲ待遇スルヲ厚シ. 余ハ彼ニ心理学及歴史ヲ借テ後ケハ時家ニ帰シ ハ山岡武松氏来訪ス 大ニ彼此ニテ興アリ. 然ニ大内ニ揚シテ今又山岡ニ揚スレバ実ニ春風ヲ去テ夏山ニ登ル思アルナリ. 十一時迄寝ニ就ク 世ノ方針下ニ

(1) 練胆
- 肉体上ノ実力ヲ養成スル
- 委地数ノ人ト交ル
- 本人ノ言行録ノ数ヲ読ム

(2) 練識
- 博ク書ヲ読ム
- 先進ノ大家ヲ訪フ
- 普ク世ノ事物ニ注目スル

三大禁物
- 思疑
- 後悔
- 懐恨

Copyright 日本建築学会

二十六日(月) t. 4.

午後洋服商来る 次ア三村四郎氏来訪 ラ流 ヒテ午
ニ成ル 余ハ午ノ鬼奴ラ祭ニ興ジ入ル 参拝ス 三郎
中條清一郎西氏来訪 ツマラヌ雑談ニ時ヲ移シ
タリ 三時余ハ山岡ラ訪フ 田中ノ妻子ラ期スレハナリ。
田中来ラス 佐野ヒ仁井田、梅井 中山等来リ大ニ酒
宴ヲ張ル興甚タ長シ 余路大ノ酔ヒ客ヒリヲリテ後
ニ就ク時十一時ナリ

二十七日(火) t. E. A.

午後鬼奴ラ祭ノ感覚ス 田中幽谷氏来訪ス 正ハ
ナ大ノ強シ 昨ニ豊国ニ赴ク 午食 山田氏 氏ヒ
連ル彼レ一緒ニ帰来セルトナリ。 田中ニ少シ岡ヲ
訪ヒ 清洗一切 山岡ラ訪ヒ 夕食ニ田中ト 今シ夕
食ノ饗応ラ受ク。 夫ヨリ兄ラ訪フ 在ラス 嫂ト 少
刻 談話シ 夫ヨリ家ニ帰ル 幹ト共ニ 表外ヘ 赴ク

小路　　鍛山　85
後ノ路　　宮原　95

帰途色々買物ラ 沢山ニ 来年正月ニ備フルナリ。
而シテ 飲食ニ立チ寄ラサクレハ 近所ノ一斉 清ナ
リトス。

Copyright 日本建築学会

二十八日(水)大. 曇.

午前八時起ノ九時義術学校ヲ務官某和余ト金拾五円ヲ与フ余心中ヲレヲ満足セクノ満足ノ余ノ依人外ルヲ以テ一時現セルナリ. 午食前市田ヘ赴ク紅田昨日迄ニ赴クヲ以テナリ 市田ニテ午食ノ饗応アリ市田ハ今主人ナレ紅田祝事? 成ラ奮ヘリ. 二時迄キリヨ宅ヘハ幹部酒面紅潮ヲツケタル刑千代松ト酒ヲ酌ミヲ以テナリ次ヲ義術学校ヲ後来ル強ル為和余晩食ヲ終リ山田ヲ誘ヒ国光ヲ経テ西片町ノ見ヲ訪フ余ハ見ト嫌トヲ覚キ竹町ノ同行ヲ勧メ他ニ全ク

小酒	酒屋	75
小豚	名王(北田著)	90
鶏ノ物	〃 (吉田氏十時目)	88
餃ノ物	加津(山名屋)	85

場内佐々木左部助ノ達ヒ家ニ伴フ幹部昨日花川氏ト表別三崎ニ赴クヲレステナリ. 余ハ別等ヲ催ント欲シテ成ラス 余ハ佐々木ト共ニ外出ヤガテ一酌ヲ傾ケ十一時家ニ帰リ十一時ま寝ル明日旅行ナル哉 旅行ナル哉 余ハ元旦ヲ待ツ旅行セン.

Copyright 日本建築学会

二十九日(木)

午前心電学ヲ終ヘ(古賀先輩出)直ニ家ニ帰シ大学病院ニ入院スルトナリ。午後母様ト兄ト再ビ家ヲ出ヅ大学ニ赴ク。山岡家ヲ訪ヒ、市電ニテ診療ニ行キ時間番号ヲ貰ヒ中村ト共ニ帰ス。家ニ帰リ直チニ中村ヲ訪ヒ家ニ帰リテ夕食ヲ終ヘ三宅ヲ訪ヒ次ニ山岡ヲ訪フ中山、石川来合セ下ラズ陰徳ニテ十時ニ至リタリ其陰徳ノ下ラナキニ論外ナリ之ヲ三宅ノ勉強ニテ、明日ニ比シテ大ニ進歩セザルベカラズ家ニ帰ヘリ兄ヨリ明晩お客ガ来ルトアリ。肴ニ一盃トナリ夜ヲ明カシ心電学ノ勉強ニ取リカカリ十一時過ギ寝ル。此日雑用雑感実に繁ス。

Copyright 日本建築学会

三十日(金)七. E. 分ガ海苔!

午前早ク松田氏来訪ス十時巳ヤ帰ル暫モ無シ
中お弘一来訪ス中お元気昔日ノ如シナラス. 憮然トシテ
見ルヲヤモナシ. 其ニ中山ヲ訪ヒ見ヲ訪ヒ宮ニ午食ヲ
ナレニ人上野ニ赴キテ本ヲ書ニ購スヘキ上オ[illegible]
鎖ヲ買ヒ二人之ヲ提ヘテ本郷ノ者ヲ訪ヒ彼等ヒ
其妻君北堂ニ進ム. 妻君年二十三四容貌ハ五十点
ヲ出ツルヘカラズ. 林等ノ知人何ノ常ニ酸ニシテ
オイシモノヲ要ル. …… 否……. 本堂ガ周囲ノ者
煩セサルハ直サニ細君ノ不才ヲ示セリ…… 然ルカ
堂ハ長子ナリシ. 細君ハ家附キノ娘ナリン……
本堂ノ鞠躬如タリ且ツ誠懇然タルヘハ林ニ
会ハ頗ヲ高レタルベキナリン. [redacted]
[redacted] 家ニ帰リテ夕食ヲ終リ孔多ヲ用ヘテ
木子氏ヲ迎ヘト車夫ヲ呼ニ行フ氏ハ来ラズカ
ラズ屋ナリ. 余ハ後悔ハ一モ能ハ解セルモノアラ
ザルナリ. [redacted]
[redacted] 九時過キ家ニ帰リ十時ヨリ
[illegible]ニ比カケ [illegible]ニ引キ留メラル. 十一
時少シ過ギル頃帰宅 全半夜ニ就ク余
ハ元日早朝京都発足孤リ[illegible]決心ス
ナリ

三十一日 (土) 七。 A.

午後ノ為ニ外ニ出ル 山田ノ宿ニ 山田ニ出テ 堂
国屋ニ寄ル 午後ニ 帰ル 午後 東京ノ宿ニ 一泊。
山田ノ宿ニ 暮ヲ 待ツ 流レ 流レ 今ヲ
前 ノ 夢ノ 間ニ 年 大 ト 時ノ 移ル
多ノ 稀ナル 年ノ 慌惚 感 ヲ
ノ 知ラナル ヤウ 気ガス。

明治二十六年正月元日 天 晴 七。

早朝起キ出テ 猟装ノ間ヘ ノリ寄ル 酒肴ノ間ヘ
元旦ノ祝ス 家ノ 先ツ 家ノ 出ノ 手田ニ 立ノ 寄リ ナシ
酒肴ノ 食ル 微醉シテ 前 機ノ 発ス 庭ニ 至リテ
ナホ 酒気ノ 失ハス、 手田ノ 金ト 快ク 語ラシ 又シ
明 庭ニ 立ツ 三崎ニ 向フ 時ハ 午ニ ナリ
単身 三浦郡ノ 西岸ノ 徒歩シ 行ク 四里ニシテ 日
暮レ、然レ ド 明月 白昼ノ 欺カノ 光アリ 幸ニシテ 金ノ
失ハス 午後七時半 三崎ニ 着ス 泥ノ 宿屋ニ 投ス
石川 博士 大学生 及 二人ノ 専科生 及 客 嵩アリ
今日元日ナルニ 酒 ヲ 飲マス, 甚ト 事モ ナス シ 利ノ
勉 ノ 長ル ニハ 聖キ タッカ ノ 之 金ト 快 語 スルフ ノ
タ ナスレ ド 膳 ニ 自分ノ マニ ノ 仕 事シ 長ノ 僅カニ 数 ナ
ナル 菓子ノ 出シタルハ 全ク ノ 融 意 ナリシカ、 家ハ

Copyright 日本建築学会

久シブリニ遠足シテ疲労甚シト雖モアサカニ我獨リ酒飲シモセズ不行儀モ体裁宜シカラズ不満ヲ抱ク寝ル前キカラ爰ニ石川ノ人ト為リヲ觀察スルニ丸テ小供ノ様ナ風俗風采ヤリ表シ彼シ學問ト言フモノ無カリシトスレバ彼ハ何モ裏シム可キ一動物トナルベシ彼ガ能ク皆嘘シ能ク笑フ其厳粛袍袴ヲ平々然タル所ハ實ニ可ク洒々落々トシテ洟垂人タルスラモサル所ハ實ニ可キモ彼シニハ自重ナキヤリ彼シニハ沈毅ト名ル義德ナク表厳ト名ル義性ナク端整ト名ル義容無キヤリ、世人或ハ學者ノモノハ是ガ性癖ヲ天キヲ表文ナシト言フモノアレモ豈夫シ、然ランヤ豈夫シ然ランヤ學問以外ニ人間タルノ要素ヲ欠カバ是シ學問ナル動物ト見做シ可ク或人曰ク學者ノ尊キハ俗事ノ上ニ脱出スルニアリ故ニ元旦書ヲ讀ミテ癡ニサルカ如キハ學者ノ尤モエラキ所以ヤリト余ハ為ス然ラズ、尚モ社會ノ人間ナラバ矢張リ社會ニ對スル仕様ナカルベカラズ、成ル程古今東西ノ大學者ハ妻子ヲモ忘レテ勉强ハシタレ併シ妻子ヲ忘レズ世間並ニヤリタル大學者ニハナレマジキカ、性ヲ飯喰フ字引ニナラント思フ人ハイザ知ラズ尚モ社會ニ生シ社會ノ人トナリ社會ノ事物ニ關係ナシト思フ人ハサレク他ニ着ル所無カルベカラズ、余ハ寫鳥幹ヲ刮ル酷甫スルヲ見テ一ハ喜ビ一ハ涙ヲ懐ム、

Copyright 日本建築学会

二日 (月)

午前八時起キ三崎ノ町ヲ見物ス三崎ハ戸千許ノ海港ノ習トシテ其風俗漁獵ニ言語全ク別ナリ旅宿ニ数軒アリ此ノ国屋ヲ以テ最上トスト云フ其他料理店貸旅宿アリト雖モ実ハ淫婦屋ト云ヒテ大ナル誤ナリ、土人ノ行レモ垂鬼ノ類ノ船子ナリ其殺風景ナル見ルタモノデナシ、大陸ノ研究所ヲ見ヌレヨリ城ヶ島ニ赴キ燈台ヲ見ル爽ニ一新精神ヲ得タリ、午後大変原生ト共ニ三崎ヲ発シ往路横須賀ニ向フ午後五時過キ横須賀ニ着ス コノ里程五里六町ナリ横須賀ニハ知人アレモ何ノ用ノ新念ニヨリ訪フヲ止メ汽車ニテ直チニ至リ平田ヲ訪ヒ大い論語ス平田ノ宅ハ狭キ故今夜ハ日蔭ヘ行ケト云ハル望ム所ト行キテ見レハ日蔭ノ最上ノ一室ニ最上ノ馳走ヲ設ケテ余ヲ待ツ、コハ有名ナル淫婦ナリト知レハ余ハ厳格ヲ装ヒ愛嬌ヲフリマキタリ、酌人等ハ勿論モ「ピラシヤラ」トシテ隙アラバ却ッテ込ミニズ有様ナリ余ハ沐浴シテ寝ル前ニ酌人ハ侍ヲ至ラサル所ナシ、ハ手ヲ取ロータ、ハ腰ヲサスロータ、寝衣モ衣セテ上ゲヨ、帯ハ私カヤテ進ジヤウ、私ハ様ナ不乗者デモハ構ヒナシバアノツイハ伽ヲ……
言語全ク別ナル猥褻者ニ余カ感レハツイ一言

言フテ見王ヘ獨リヤ慮ト斬リ込ンテ眞向ヨリ武者振リ付カン余ハ不時ノ災難ヲ蒙ルナラン、余ハ非常ナル疲労ノ極カンカン丸ノ現度カ酒ヲ命セントセヌ、然シ此思ヘリ、平田ニ知ルタラン其方レノ妙ナラズ、酒ヲ飲ム、美人酌スル、一言二言何カ云フ、的毒ナルヲ余ヲ誘フ、余之実決シテ淳極ニ非ス、偽善的ノ淳極ハ酒ノ海ニ打サ破ラレン、余ハ寢ニ就カン、的ハ余ニ待セン、斯ンテハ珍事モ出来リーナリ、間ノ日陰ノ下女ハ朝寢ニテ枕張ナリ、二時ニ時又ハ四時拍手スレハ起キヘコト恭テ来ルトッ、是レ風俗ノ乱レ所以ナリ、然レモ譲ニ曰ク旅ノ恥ハカキ捨テル、若シ平田無クンバ余モ亦ン一箇ノ痴漢ト為リシナラン、嗚呼人事間愛ヲ納ス才物ト痴漢トノ間、厚皮紙一枚ノ差アルニ非ス、狂漢ト豪傑トノ間ニ毛髮一本ノ差アルニ非ス、悲ム可シ恐ル可シ、アナ賢ン、千万無量ノ思ヒ沈ンテ「プシンプシン」シル錦ノ夢ヲ被リ寢ニ就ク、快絶爽絶、酒無シ、又ノ格別ノ味カ、我事夢ニシテ果シテ何事ヲ坪井正五郎氏ニ告テンヤ、

「私ハ、ハテ帶ヲ盲メサセテ隠蔵ナテ、マー今夜ノ夢ヲ見サイマスコト子、ハ風ヨロシクハイケセンヨ……オナマーハヤセマスコテ居ラレルルテ、アンマリ氏浮気ナル カラダスヨ本トニ、マーサレハ終ナ迷ハセ、チャント続コテ上ケマスカラ、」

Copyright 日本建築学会

三日(火) T、E、

昨夜ガ早ク起キタ例ナレ、余ハハ起キ出ツ
感冒ガ長人類リン余ヲ優待ス 昨夜ニ懲リ
ザルト見ヘタリ、帽子ヲ刷キマシヨ、上衣ヲ上ゲマシヨ、
外套ヘ私ニガ強カラ。マーモ少シハ休ミ……
這子ニヲ大内義天ト金ヲ徙ハ山川将軍ヲ
訪ヒテ帰ル途ヲルヤリ、午刻鎌倉ニ至リハ宮
宮、建長寺、円覚寺、長福寺ガヲ見物シ、
夜ニ入リテ帰京、直チニ平田ヲ訪ヒ佐藤、大
塚ヲ伴ヒテ金清楼ニ飲ム、余酔ヒ、佐
藤酔ヒ、大塚酔ヒ、ヨイヨイヨイ、ヨイヤサノサ、
コレハ失礼……、今夜ハ荒尾ヨリ平田ニ一
泊セリ

Copyright 日本建築学会

四日(水) T. A.&E.

昨夜の疲労を癒し今日は十時少し
寝ぼけ覚めの八十八山下 来た大に久しぶりに
清涼す余は一家皆い揃り西門町の
猪永金兵衛東京に大に飲む三ツ出来
鈴木伊勝の坊ヒンピラ大き、甚き真水が永
山田の坊と見の坊と平田の坊と錦輝作
来次第沢家に院の完食ト偶然一致され
今者百余名余は大に悦快にしてタマラ無し
鮫の如く猩の如く大酔して家に帰り内村
氏に乗り盗し食の介抱者なりしなり、内村去
余は完食に一大異質的動出をなす彼は
納レス余大と激昂して争の所なり之を勇スル
の完食の思の赤心アレバなり、今我酒気
充満朦々又朧々盗し食の和ラテハ
大缺点にして他人に取ラヨハ余カ化ケ
反の縛の様に、悔アリしたと
乎嗚呼……

Copyright 日本建築学会

五日(木) 六. 4.

宿酔ノ気味アリ早朝稲垣氏来リテ浅草ス艇ノ宿ノ亭主来リ語ラク更ケ日々一度ハ居申置可キコトアリ書生ノ中ニハ往々夜遊ヒ出カケ又飲酒放歌ノ事トスルモノアリ斯ノ如キ人アレバ其隣室客ヲ失フノ結果ニ至ルナリ家ノ對面ニモ関スルナレバ斯ノ如キ客ハ一切ハ断ラ申ス家風ナリト暗ニ所ノ明カニ余ニ釘ヲ打ケツケタリ小樽ヲ主人カ口上哉ト思ヒシカ如何ニモ吏ノ至極宜シ"ト答ヘタル、少刻シテ白石虎次郎氏来ル艇ヲ出ル余ハ山岡ノ塔ヲ訪ヒ中山ヲ訪ヒ西浄町ヲ訪ヒ又山岡ヲ訪フヲ共ノ本堂ヲ訪フ、山田、中西、岡本、三角、戸塚、松浦来合シ大騒ヒナル、七時半一合過去余ハ山岡、山田中西松浦ト竹町ノ花屋ニ赴キ家ニ帰リ直チニ西浄町ニ行キテ一泊ス今夜非常ナル夢況タリ余ハ父ノ意ハ通リ大ニ叱責セラレタリ。又非常ナル大興行アリ柔道ト相撲トノ仕合ハ先ヲ勇マシク演戯ハ先ヲ面白ク西洋人体解剖ハ先ヲ珍シカリシ。

Copyright 日本建築学会

七日（土）　A.

九時起キ大生ヲ訪ヒ飯陵ヲ山田、長坂ガラヲ訪ヒ去リ岡倉ヲ訪ヒ然テ家ニ帰ル。宮崎来會則ち常ニ大塚来リ日暮レ頃長谷川生徒安藤見来訪ス。二時ニ及ビ食ヘ酒ヲ出サス菓子ヲ出サス茶ヲ遊ビ仏壇ヒカル所ニ妙味アリ夫レヨリ西片町ニ赴キ方ヲ変ノ風ス山岡来合シ大ニ盟酒論沸騰セ十二時ニ及ブ彼レ倒リ全ク寝ニ就ク。

六日（金）七、　A.

九時眞水ノ見舞ヒ岡村ヲ訪ヒ大塚ヲ誘ヒテ旅費請求ヲナレンスヲ岡倉ヲ訪フ不在リ夫レヨリ日本銀行ニ赴キ成野ニ逢ヒ夫レヨリ愛宕町ノ田島ヲ訪フ不在リ夫レヨリ久しブリニテ愛宕山ニ登リテ風色ノ眺望ヒ平河町ノ木子氏ヲ訪フテ逢ハス本村町ノ江原ヲ訪フテ面ヒ逢ハス帝ノ於八幡ヲ一見シ夫レヨリ田中ノ飯田町ノ訪フ中山来合シ居リ談断ノ熟ス大内春夫ヲ亦来會シテ益マ興ヲリ、放浪廣言縱横無尽十時ニ及ヒ家ニ帰リ西片町ニ赴キテ一泊ス

八日（日）　A.

八時起キ十時内村父子ヲ訪フ先頭節ヲ大義面目ヲ論沸ヲ以テ政ヲ御ノ馳走ヲ受ケ夫レヨリ木子氏ヲ訪ヒ家ニ帰リ西片町ヘ赴キ晩酌ノ後寝ニ就ク。

Copyright 日本建築学会

九日（月）太. A.

朝登校ヨリ美術学校校友会ヘ赴キ甚ダ盛会ナリ午後朋友ヲ歴訪シ平田ヘ赴キ小児ヲ相手ニ夕食ヲ終リ一旦家ニ帰リ西片町ニ赴キ明日ノ講義ノ準備ヲ為シ例ノ如ク寝酒ヲ飲デ寝ニ就ク

十日（火）太 A.

昨夜ヨリ大雨降ル今朝美術学校ヘ赴ク大学ヲ経テ正午帰宅大ニ勉強ス播磨氏来訪夕食ハ八例ニ因テ例ノ如シ

十一日（水）太 A.

午前登校午刻帰宅午後平田ヲ訪ヒ夕食ハ西片町ヲ訪フ足帰宅シ大ニ飲酒ス余馳走ニ預リ恐悦シテ大酔シ家ニ帰リ寝ニ就ク

十二日（木）. N.

午前青和会ノ立花氏ヲ訪ヒ美術学校ノ講師タラシムルコトヲ依頼ス余ハ自白ノ工場ニ赴キ得ルヲアリ午後手紙矢一氏ヲ訪ヒ美術学校一件ヲ依頼シ確ト承諾ヲ得タリ（正午播磨来訪ス）次ニ内藤

有ヘ赴キ田島、高西諸氏ト雑談シ夕食後平
■重正又氏ト逢フテ談話スルコトアリ次テ日本銀
行ヘ赴キ田ヲ月ヒ去ヲ古市公威氏ヲ訪ヒ
次ニ又[illegible]ニテ別フテ逢ハス九時半帰宅浴後
一番十一時半寝ニ就ク。

Copyright 日本建築学会

十三日(金) N.

午前大学へ赴ク 午後ヨリ宮崎ノ友人 後藤来ル
二時半頃 汽車ニテ 芳賀矢一氏来訪シ大ニ強ク
泊セラレ帰ル 夕食ス 之ヨリ先キ 余大学ヨリ
児玉病院ニ赴キ 兄ト逢フテ母ヨリノ書簡ヲ
与ヘ 態々ノ所アリ 余ハ一家ヲ立ツルノ難ヲ
聞キ しみじみト兄カ生計ノ難キヲ憐ミ且ツ悲ミ
非常ニ感ヲ表シタリ 余ハ益々今後五年間
妻ヲ娶ラザランヿヲ自誓セリ 夜中 條氏ト大石
真氏来訪 大ニ学術上及ビ世界上ニ就テ強ク
スル事 暫ク 頃 両人去ル 余ハ宮崎ト散歩ニ
出カケタリ 一酌セント欲シテ止ム 十一時ヨリ
寝ニ就ク

Copyright 日本建築学会

十四日(土) 晴. E∀A.

午前 秋田郡氏来訪 共ニ大学ニ赴ク 午後ヨリ塚本三橋両人来訪セリ 三時頃有名ナル江原細氏来訪ス 珍客ナレバ酒肴モ飲ム興アリ 互ニ浮世ノ虚相ヲ語レタルカ江原ハ突嗟ノ言ニ驚首ノ持ヲ低クア余ニ示ス 余ハ幸フシテ一首ヲ和セリ 夕刻ニ及ビ将棋ヲ囲ミ牛肉ヲ煮酒ヲ飲テ大ニ快語ス 中條氏亦興ル 江原例ノ通リ放言諧謔 佐芳原柳橋ノ艶話ニ及フ 中條氏眉ヲヒソメテ之ヲ聞ク 嗚呼 昨夜ハ余真正学者トシテ堂々ノ論ヲ吐ク 今夕ハ即チ洒々トシテ月花ノ嬌ヲ語ス 中條氏余ヲ評スルヲ果シテ如何ソヤ. 酒尽キテ食亦タ竭ク 酒肴既刻ノ後 余ハ江原ト家ヲ出テ芝ノ天神(湯島)社内ヲ漫歩シ 漫ニ矢場ヲ経過シテ妖婦ノ咎ムル所トナリ. 漫ニ暗燈ノ下ヲ徘徊シテ治郎ノ怪シム所トナリ. 徒ラニ往時ノ豪遊ヲ追懐シテ轉タ感動タル雄図ヲ企図セリ. 去レヨリ さんばに入リテ夢間ヲ低ムケ大ニ浮世流ヲ陳情ス. 嗚呼多情多恨由来婦女ノ情深クシテ多シ. 吾人カ机ニ向ヒテ古人ノ言行ヲ探ルト. 緑竹辺酒肉ノ間ニ絶世ノ佳人ト相戯フルト其好意何レニ在ル乎. 江原問フテ曰

Copyright 日本建築学会

ノ世ヲ死ヲ忘ルノ大快楽ハ何ソヤト。余沈思暫刻ニシテ嘆然トシテ歎シテ曰ク。一国ノ帝王ト為リテ君臨スルノ快楽来タリテ死ヲ忘ルヽニ足ラズ。一国ノ宰相ト為リテ天下ヲ経倫スルノ快楽来タリテ死ヲ忘ルヽニ足ラス。一間ノ大発明ヲ為シ万人ノ称賛ヲ蒙ムルノ快楽来タリテ死ヲ忘ルヽニ足ラス。一大技術ヲ揮ヒ傑作ヲ未代ニ残スノ快楽来タリテ死ヲ忘ルヽニ足ラス。唯タ世界第一ノ美人ニ死ヲ以テ愛セラルヽノ一事ハ以テ我カ死ヲ致サシムベシト。江原勝ヲ拍テ曰ク我カ心ヲ得タル哉我カ心ヲ得タル哉。一醜婦甚シク死ヲ以テ我ヲ愛セバ我猶且ツ之ヲ愛スヘシト。由テ二人相見テ人生ノ弱点多キヲ歎ス。余曰ク人弱点多キ者ハ強点亦多キヲ常トス何ソ深ク歎クヲヲ要センヤト。再ヒ胸襟ヲ開ケ快活暫刻快楽極ナシ而シテ時已ニ十二時ヲ過ク即チ燈ヲ剪キ秋ヲ分テ各々家ニ帰ル一日全篇ニ於ケル懊脳ハ坐ロ怒胃ニ充チ神心清躍ス。強テ衾ヲ被テ之ヲ壓抑ス其漏レ所ハ蓋シテ華胥国ニ花トサ南柯郎ノ月トナリ。月宮殿ノ桂枝ト為ラン乎。誰カ能ク其花ト月トヲ見ルモノ。誰カ能ク其桂枝ヲ折ルモノ。日ク潜然迂史伊藤公吉ナリ。

Copyright 日本建築学会

十五日(日) 晴. 1.4mE.

午前八時起キ洗浴マシテ朝食ヲ出テ先ツ小倉沢ノ所ヲ次ヲ北海ノ後家ニ任マヘ遠藤氏ヲ訪ヒ金氏ノ宅ヲ催セル来会二十五歳嬢ノ宮ニ待マ先ツ大ニ餅ヲ食フ美甚シ次ヲ酒ヲ飲ム甘ミヲヘカラス二時主氏ノ宅ヲ去リ下條ノ所ヲ訪ヒ浅氏ノ勇君ヲ先ヒ以テ教ヘテ果サマ、去テ中條ノ所ヲ去テ横山ノ所ヲ、去テ横沢ノ所ヲ、去テ郡所ノ所ヲ、田中モ五所ヲ、各盃ノ白酒ヲ傾ケ去テ松氏ノ所ヲ氏大ニ金ノ餞席マセリ夕暮ニ帰ヘ矢島米屋ヲ雑貨店ノ後金ニ宮島矢島ノ所ヲ巡リ夜半ニ帰リ食マ余ハ大ニ矢島ノ風俗ニ対アルノ知ル以彼ニ多ク感ハヤ哉ヤ、中一時家ニ帰リ十一時寝ニ就リ、昨日悠々多ク宮ノ所ヲ訪ヒ厚ク自ラ謝ス雪.

Copyright 日本建築学会

十六日(月) t. E.

午前大学ヘ行キRosenyartnerヲ受ケ午後ヨリ一心不乱ニ勉強ス日暮内お逢次郎君来訪ス即チ酒肴ヲ置キ将棋ヲ囲ミツツ話合終リ離別シ八時内お氏去ル 余再ビ勉強ニ従事シ十一時ニ寝ニ就ク

十七日(火)

午前美術学校午後ヨリ西片町ノ兄ノ宅ニ赴キテ勉強ニ従事ス 来客ヲ避ケンカ為メナリ而シテ夕食ヲナス兄夫婦ト談話ヲナス 余ハ今日初メテ振リテ浮世ノ塵埃ニ耳ヲ汚ス 嗚呼浮世ハ実ニ面倒ナルモノナル哉 厭世ニハ ワザレ共実ニ仕早……コレモ兄夫婦ノ表……出ヅル行事ノ程ヅヤ……八時半田ヲ辞シ十時半帰宅 ソシテ取調ヘヲナシ十一時半寝ニ就ク 今夜一珍話ヲ聞ク日ク平田ノ書生佐藤寛五郎ナルモノ 全家ノ婢女ふさ(廿二年)ニ私通シ ふさモ早四ケ月ノ妊娠ナリシ(三十二)ト 因ニ云ク佐藤寛五郎ハ薄命ノ人ナリ別ニ頼ムヘキ親戚知己モナク辛酸ノ辛抱トデ平田ノ食客スルヲ今ニ出入ス身 昨冬僅カニ通信省ノ雇員ヲ拝命シタルモ其月給ハ拾円ヲ

Copyright 日本建築学会

去レバ垢面弊衣年新ニシテ酒モ肴モ口ニ入ラバヨソ三盃目ニハソワト出スノ気象甚旁今年三十三歳ニシテ分身ナリ去レド彼シ其昔シ男盛リノ其頃ハ田舎ノ廊ニ出入シテ少シク遊ビノ味ヲ嘗メモシタルガ自ノ因果平田家ニ入リテヨリハ金銭ハ勿論外出ヲモ心ノ修ナラチバ、怪シキウ面相デモ男ハ男、固リ来ル春毎ニ味ナ情ノ起リ来ルハ自然ノ妙、ソコデ笑生意地キタナリモ磐ヨリ平田ノ待女ヲ歓楽シ先ヅ或ル一女ヲ擬ニシハ柳ノ故アリ。

思ヒハ全シ待女等モ、何レ劣ラヌ女盛リ、男欲シヤノ日夜ノ思ヒハ、夢トナリ幻トナリ、現トナリテ果ハ真事トナルダカシ。平田ノ待女ハ数多キガ中ニ一キワ目立チシ肥ツチヨハ身ノ丈ケ五尺三寸余リ腰ノ回リハ五六尺其顔ニ目ト見ラレヌヲ「きセ」ト名ケタリ。年頃ハニナンニ色ハ黒カラチド杓子ブラデ、醜キ中ニ取リ柄ノアルハ内人好シの「ふさ」ニゾアリケル。備ハ出シノ田舎娘傍ハモ寄リ付ケヌさ「ちる」と呼ひ、次ハ十七の桃太郎娘、まだ大く春ヲ知リ初ラさい、悪くハないが愛嬌なく、ちぢれた髪が気まかいる、ふれを即チ「きよ」姉あり。殘ルハ逗子ノ相撲娘ポッチヤリ顔ノ「ムツチリ」肌、見様ニヨリテハ取柄アレド此モ如何ニモ意地ノ悪シ名付テ「いな」と云ふなりけり。

佐義が先きか「おさ」が先きか，どちらがどちらか知らずども先ヅヨリ似合フタ一對ナリ．天道ハ人ヲ捨テズ斯クテコソ世ニスタリモノハ絶カラケル．今年ノ春平田一家遠子ニ赴キテ留守居ノ役ヲ佐義ニ「おさ」，互ニ今モ人目無ケレバ，日頃ノ思ひヲ一時ニ何ボウ睦ニ語ラヒケンカ，思ヘバ可笑シク又可愛シ．曾テ品川弥二郎ノ邸ニ於テ書生某ト待女某ト通セシコトアリ，珍ラシカラヌ事ナガラコレコソ人ガ大弱点ナレ．懺悔スレバ五年前，拙者高等中學ニ在シ頃「たま」ト云ふ待女ヲ互ニ思ひ思ハレテ，あやや不義ノ行ヒ及ぼんとセしを，拙者ハ良心辛ふして制シ止ル故，其當時ハ血気ノ覚悟人ヲ自トモ云ハ云ヘ……おとゞ思案シツ，浅ましや情ヲ交ヘ里さがりをせ悔いし事ハあり．今ヨリ思ヘバ笑止千万誠ニ慨かしき次第あり．然ルニ佐義ニ十三歳，男一匹の分別ハあるべきヨ，彼事ヲ待女ト不義セルコトヲ，占・等ガ彼ノ真相カモ知レヌ呵々．

Copyright 日本建築学会

十八日(水) t. E.

美術學校例ノ如シ、午後ハ流石ニ疲レテ早歩ク七ツハ漸ヒモ得セス日暮ノ頃山岡氏来訪後ニ入ツテ中陣氏ヲ訪ヒテ離別シ夫レヨリ西片町ノ兄ヲ訪ヒ其病院ニ赴キ連レ立ツテ豊国ニ赴キ又帝内輪ニ別ニ面白キ有ル様笑ヒシ、余ハ兄ノ生計上ニ於テ無益ナガラ関繋スル所アリ殆ンニ余ハ面ノ警ニ接ノ思ヒ切ツテ嫂ガ失德アル所以ヲ論難シ兄ガ之ヲ注意シ智慧スヘキヲ忠告セリ、兄ハ非常ニ深ク嫂ヲ信スルヲ以テ心中甚タ不穏ニ見ヘタリ、併シ彼ハ余ノ誠忠ヲ信スルヲ以テ殆ンニハ裏ンテ忠告ヲ納レタリ、嫂ノ失德ハ要スルニ其兄弟ニアルカ、嗚呼嫂ハ非常ナル才女ナリ才女ハ必ラス出過ルノ病アリ、独リ長所ハ彼ノ短所ナリ穴賢ヨ〳〵、今一ツノ忠告ハ兄カ飲ノ上ニ他人気取ヲナスヿナリコノ事ハ情状所謂一般ノ恐ル所ナリ、強ヒテ慎ヘヲ之ヲ云ヘバ兄ハ昔日ノ少壮洗濯ノ雷気ヲ減殺シ尽シタルナリ、之モ妻故ヘ穴賢ヨ、余カ成ハ可ノ速ヲ帯妻セント云フモ或ハ是ニ見ル所アルカ。

Copyright 日本建築学会

十九日(金)　E.

午前七時半起ク午前ハ室内ノ大整頓ニ費ヤシ午後ハ
時建築歴史ノ研究ニ従事ス然ルニ少刻ニシテ動カ
レバ倦厭ノ気生ズ之ヲ散センガ為メニ狂画政策ヲ
画ク久シ振リノ執筆ナレバ意ノ如クナラズ捻ニ之カ
為ニ大ナル時日ト精神トヲ費スノ不幸ヲ見ルニ至リタリ。
日暮嶺ヲ出テ飯田町ノ遠ルヲ待ク久シ振リニテ大ニ
流涕シ神田辺ヲ散策スまレヨリ河岸ヲ行ツテ不
在ナリシ御ニ至リ青木君ニテ夢庵ヲ訪ハケ十時
半家ニ帰リ十一時過ギ寝ニ就ク。余ハ今日遠ル人共
ニ迷家学上ニ関マルモノモ有益ナル流涕ナセリ。
近ク彼レハ余カ無二ノ学友タルカ。

Copyright 日本建築学会

「後ノ足力ガ大ト了笑」

二十日(金) 晴 A.

午前 大学ニ赴キ木子氏ニ逢フ午後上野ノ部ニ至リ彫塑宮殿ニ赴キ彫刻スル所アリ. 四時全部ヲ辞シ同行ノ諸氏ト久シ振リニバトラ徒ノ会ヲ天弥社内ノ魚十ニ開ク大ニ痛飲快活セリ 余十二時ニ酔ヒ家ニ帰リ直ニ寝ネタルガ時ニ十時ナリ.

「君ハ酒ヲ飲ンデモ一向平生ト違ハヌ所ガ妙ダナ 僕ナドハ一杯ガ瞬ガスルト居ラレンナ」

Copyright 日本建築学会

二十一日(土) 工. E. 4.

午前勉強 午後山下妻子ヲ宮崎伊香保ニ催セル工科大学新年富士ニ出席セントスルナリ 余ハ暇ヲ利用シ天晴レノ好男子トナリスマシ. 山下ト共ニ根岸ニ赴キ食スルモノ凡ソ百五十名既ニ盛ナリ 餘興ニ円遊ノ落語如燕ノ講談アリ 既ニ盛ナリ. 日暮富士ヲ眺メ須臾ニシテ喧騒殺伐ノ大一座トナリ 舞飲 馬食 放歌 狂跳 中々名状シ難カラス 余ハ多飲マサランコトヲ務メタリシモ 天下ノ大勢ハ如何トモスルコト能ハス 是非ナク大酔シテ例ニハ似合ハズ 歌歌狂跳ノ間ニ 数升ノ酒ヲ引受ケ十時富士ヲ辞スル 途中ノ公亭ニ来合セタル岡倉文学士ヲ引張リ 快酒痛飲シタリ 十二時過キ 公亭ヲ去リ蹌々踉々トシテ家ニ帰リタル件ハ 一時ヲ過キタリ 途中腹痛ヲ催シ一度吐瀉シタリ 蓋シ余ガ近来ノ一大快富ニシテ又タ一大驚倒ナリトスベシ.

Copyright 日本建築学会

二十三日(月) 晴 X

ふれ替快晴午前泳ぎ午後勉強午後全部日暮
迄氣持悪く陸に溺死者氏ノ耐震構造ト云フ演
題ヲ聞キタリ少シヲ聞キバエアッ十時家ニ帰ラナー
時頃ニ就ク快絶壮絶ノ夢アリ。

廿四日(火) 晴 A.

午前裏術学校行午後勉強日暮西片町ヘ行キ
現状及夢物語酒ノ肴ヲ食ッハ時帰宅讃美
及ビ美術建築論ノ起草ニ取ッカヽル十一時過キ寝ニ
就ク

Copyright 日本建築学会

二十五日(水) 雪 A.

午前図画実技. 早朝ヨリ霰雪紛々 午後五時ニ至テ止ム 積ル三寸ニ達セリ. 午後ハ例ノ如ク半休息, 半勉強 夕食後トボ〳〵ト飯田町ノ那珂ヨリ方ノ那珂大ニ喪ヒ 鹿肉, 猪肉, 雉肉ヲ馳走シ内輪ノ懇言強ヲナス 田中ハ月給拾一円五円ヨリ富貴ヲ排セテ一家五口ヲ養フ 大学雖卒堂ハ(しかしハ入ヨリ)五円 家賃ニカルフルニ素手 返金ヲ以テシ 残余ヲ以テ一家五口ヲ養ハネバナラズ 見ハ収入二十円家族ノ保証金二十円 合セテ四十円中ヨリ十円ノ家賃ヲ排セテ一家四口. 江原ハ三十五円ノ収入ヲ以テ一家三口. 碧ノ大内ハ六十円ノ収入ヲ以テ一家四口 彼ヲ之ニ比スレバ 余カ碧身下宿ノ電燈ヲ以テ十五円ノ収入アルハ決シテ歎クベカラザル乎 大酔シテ家ニ帰リ湯ヲ飲ミ三合以下酔醒ヲ防キ十一時寝ニ就ク

二十六日(木). 晴 ×

午前勉強 日曜建築歴史ノ研究セルナリ 午後 全上 沐浴一番ス. 夕食後 見ト新陸ヨリ陸ト陸軍劇ハ 時家ニ帰リ 再ビ半勉強ノ半ぶらうヲ 強決シテ 十一時寝ニ就ク 今ノ天下 恐レ太平

Copyright 日本建築学会

二月九日(日) t. A.

昨夜霜今曉ヨリ飛雪漸ク紛々タリ 余ハ昨夜ノ疲勞ヲ癒ムリテ心神爽快ナリス 雪ヲ凌ヒテ幹部ト上野ノ図書館ニ赴キ正午大雪ヲ蹈テ家ニ帰リ一盃ノ酒ニ心気ヲ快復ス 午後三時ヨリ大雪ヲ犯シテ英氏ヲ訪ヒ清談数刻 卵酒五合ヲ傾ケテ雪ヲ賞ス 夜ニ入リテ氏ト共ニ表外ヘ赴キ十時雪ヲ蹈テ家ニ帰ル 日比ハ街川ノ巷間ハ醜陋汚穢見ルニ堪ヘス 今雪ヲ以テ之ヲ覆ヘバ則チ一望白妙佳絶ノ仙境トナル 況ンヤ又天地ノ霽レ間々月光ノ雲間ヲ漏レイルヲヤ. 天下ノ事蓋シ皆之ニ類ス. 其爲ト云フモ皆一時ノ瞞着ナリ明日雪去レバ則チ元ノ醜体ヲ現ハスニ過ギズ. 余ハ此ノ良夜ヲ空シク送ルヲヲ惜ム. 余ハ一凡流客ナレ共ニ能ク徹シテ此ノ雪ヲ賞セザルヲヲ惜ム. 今日英氏余ニ秘画ヲ示ス. 支那人ノ画ノ所ナリ. 其意匠遠ク我カ日本ノ秘画ニ及ハスト雖モ亦一種ノ妙味アルカリ. 蓋シ秘画ハ本邦画工ノ最モ長スル所ニシテ他国人ノ味シテ及ブベカラザルモノアルカリ.

Copyright 日本建築学会

三十日(月).晴　大祭日

午前ハ挑子.新聞加筆,写真帖製造,石膏像ヲ,中像ト浴槽ニテ昨夜ヨリ夢ヒタリ午後ハ休憩,室内大整頓,勉強,御所ヲ御著後書信ヲ後ニテ夢セリ.日暮ニ勉強一寸西岸町ヘ参キ20min ノ Obst,馳走ヲ受ケ家ニ帰ツテ中像ト浴槽ヲ山岡来有自態ヲ帰ル丈ヒコリ勉強セリタカ,ツナーハ出産ニ休ム.

Copyright 日本建築学会

三十一日(火)晴

午前美術学校へ赴き試験ヲ行フ十一時帰宅シ答案ヲ閲スルモ完璧ナルモノナシ余大ニ失望セリ午後佐々木新太郎氏ハ勉強ノ為ノ家ヲ出テ平田ニ至ル偶々全家ノ二児逗子ヨリ帰来シ余ト食事ヲナス二児無心ノ無罪真ニ愛スベシ余ガ二児ノ手ヲ取リ頭ヲ撫スルヤ一種ノ絶妙絶美ノ愛情ヲ生ズルトリコノ愛情ヲ彼ノ美妓カ手ヲ取リ背ヲ撫スルヤノ感情トイスレカ勝ルモノアルカ余ハ一心ノ勉強ヲ終ヘシ九時御供ト連雀町ノ「ヤブ」ニ鳥ヒ大ヲウ堂ヲ見ス彼シ中々ニ見アリ惜シラクハ言葉ナキカヲ十時過ヤ全充ヲ去ウテ十一時家ニ帰フ十一時半頃ニ就ク余ハ今日新料ヲ拂フ金無カリシ、然シテ余ハ平気ナリ之ヲ聞ク佐藤ハ遂ニ女ト婚セリト、又平田ノ書生大塚トイフ男近来ヨリ廓通ヒヲ覚ヘシト、矢島モ近日貰フベシ、宮島ハ如何ニヤ、御供ハ安心ナリ、余ハ如何……フハハ……問フヲ勿レ野暮隊長!

Copyright 日本建築学会

快晴　二月一日(日K)t. E.

正月ハ瞬ノ間ニ過ギ今ハ二月トナリヌ. 午後上野ヲ食ヲ出ヲ見テ直ルヲ工場ニ行ヒ有益無益ノ議論ニ時ヲ費シ盃ヲ重ネ酒ハ全トアノ無双ノ害友及悪友ナリ. 日暮家ニ帰リ夕食ヲ一番休息. 七時家ヲ出ツルハ武氏ト門前ニ立ツ女ヲ日蔭町ノ座敷ニ赴キ面白キ講談ノ間ノ武日ノ君既婚ノ風俗如何ナリ盃シ或ハ一種運動ヲ試ムルカヲン今日迄ヲ堅敷スルハ却テ手柄ニ非ズト. 余笑ヲ曰ク. 年寄ノ事無キ也然レ共近頃人任セ余ヲ語ル余常ニ笑ヲ答ヘザルヤト. 十時武氏ト別ル余ハ単身ヒヅ子ニ入リテ飲食ス. 飲ニ友ナシ間々空想起セル事. 余ハ数十年ヲ考ヘスレテコノ所数年ヲ考フ. 余ハ実ニ漂々傷々家事ノ累ナク従テ得ナ従テ費サンヲ希フ. 余ハ久カラズシテ水泡ニ帰シ飢餓ヲ生セン. 余ハ之ヲ貯蓄セザルカ余ハ之ヲ尽シテ却テ借財ヲ生セン. 危哉危哉. 而シテ世ヲナホ余ニ百倍スルノ先キ者アルヲ. [illegible]ニ怒レサルヘケンヤ.

二月二日(木) 天. A.

午前七時半起. 九時ヨリ十時ニテ登校午後登校井上博士ノ講演聞カンカトオモヒシニ時流流四時半家ヲ出テ玉田ニ赴ク. コレハ今日玉田ノ長子ノ誕生日ニ當ルカラテ祝宴ニ招待サレタルカラナリ. 余ト見ト矢島ト共ニ行キ、叔父ト共ニ面白ク淹弦シナカラ食事ヲナシ終リテ大塚御使等モ来リ「トランプ」ナドノ遊ヲナス. 九時過ギ宴ヲ辞シ余ハ行ツテ即チ共ニ帰宅ス. 途中青木堂ニ入リビールヲ傾ケ十時家ニ帰ル. 余ハ今夜叔父ヨリ聞キタル淹弦ヲ録セリ. コレハ初期ノ有名ナル雑詩ニ属セシカラナリトカ. 余ハ叔父ノ見識ノ高ク老人ニ勝レタルニ感ジ、其筆ヤリ彼ハ四十五歳ノ老成人ナリ余ハ廿七歳ノ青二歳ナルモノ. 十一時ニ寝ニ就ク.

Copyright 日本建築学会

二月三日(金). N.

午前学校ヨリ帰セシ事ヲ知リシカコ"ハ機多出発ヲ延期
等観考ヲ与ヘシモ行キテ見レバ何ノ行見モナ
賞ハレズ空シク帰宅 午後工場ヘデモリカントスル
外務所氏来訪絶ヘ面白キ物語ノ末四時
帰リ次テ武庄来訪五時半ヘ夕食後散歩ニ
出ヅルセシカ曇中無一点ナリ星光ナク風大堅ニ動シ
テ不平ナガラ美味ノ膳写ヲ堪能シ絵ノ面ヲ
調ヘシ後ヲ絶ヘ不平ヲモ打ち忘レタリ
休息ト勉強ト交モ共経過シテ居ルコトナ一時
ニ及ビ寝ニ就ク今迄ハ正直ニ勉強シタリ、夜
徹ヲ通セバヤ、シテ見ルト考ヘタリ無錆ノ事ハ勉
強出来ルカ知ラン、コレ医来ノ一大問題ナリ.

二月四日(土). 晴. ×

午前九時大学ヘ登校武庄氏ノ為ニ書籍ヲ借リタリ.
間ク庄氏近日中ニ大阪ニ赴カントスト氏ハ之ヲ勧
誘人ニ強ラス只タ余ニ之ヲ話スノミ. 余午前氏ヲ
訪フ氏絶好ナル親画ヲ時ヘタリ奇人ト云フベシ.
午後田中氏来訪ス茶菓ノ事ニ雑談スルコト数時ヲ
二人携ヘテ西京町ノ兄ヲ訪フ兄嫁ニ外出セントス
ルハ丁度サテ中山教考ヲ訪フヲ間強ス, 氏(通商)ヲ

置ヲ縱橫ス眺ヒテ山岡氏ト共ニ来リ今ヒラ浅大ニ興アク。即チ本ハ十二日講演会員ノ集合ヲ催サンコトヲ議ス或ハ一泊説ヲ主張スルモノアク或ハ一日説ヲ主張スルモノアリ。或ハ池上ト云ヒ或ハ大寛ト云ヒ、或ハ江嶋ト云ヒ或ハ金沢ト云ヒ係々トシテ決セス九時ヨリ家ニ帰レハ両妻アリ赤飯ト云ヒ登坂ト云フ。両人膳ヲ去ル後一多次テ事務ノ研究ニ従事シ日記ヲ認メ絵画ヲ臨写シ十二時寝ニ就ク今祝土曜日ニ際シテ余ハ大ニ決心ヲ固ク為ス所アラス資金無ケレバナリ。余ハ先輩ノ俸給ヲ得サルナリ。余心中窃カニ手ナルヲ能ハサルモノアリ。

二月五日(日) 大. A.

午前西片町ヲ訪ヒ無錫ニテ徒弟ニ草刈ヲ訪フ稽古ニ関シテナリ不在ナリ去テ江ヲ訪ヒ又た然快復ヲ祝シ酒アリ肴アリ接メテ愉快ナリ。夫レヨリ四谷三丁目ニ入リ再ヒ飲食ス快楽ナレ。夫レヨリ海地ノ日枝神社ニ参詣シ煙草喫キ茶亭奥深キ所ニ入リテ休息シ大ニ将棋ヲ戦ハスカ丸皆大敗ヲ取ル不廉ナル席料ヲ払ヒ柳さんの世話ヲ聞ヲ始メ中村弘一ヲ訪フ独ル丸皆不振的ナリ夫レヨリ家ニ帰レハ時ハ丸時ヨリ食ヲ喫シ大ニ中條氏ノ為ニ図画ノ見本ニ従事ス。

Copyright 日本建築学会

十時ヨリ勉強ニ後手ニ十一時半頃ニ就キタル

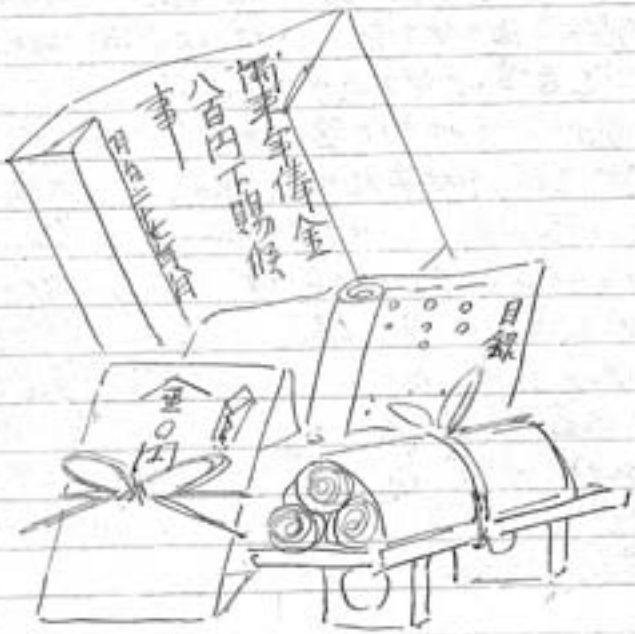
六日(月). 晴.

午前午後共ニ勉強ニテ暮ル 今日裏町学校ノ
喧嘩ノ帰途来ル事ニ決定ニ百八十円貰ヒ
共ニ夕食ヲ西片町ニ行ク 夫婦連レニテ
表門ヘ迎ヘニ行ク 第一駅ニ迎ヒ共ニ義父ノ
赴ク久し振リノ歓大夫中ニ面白ク就ト現
実ノ現況ヘカリ

春子大夫 (福岡加藤) 85.
伊達大夫 (福岡) 95.
光大夫 (長山) 80.

大隅欠席スト雖モ少シモ撲ナカリキ. 此翌両朝モ
ノ家ヘ寄リ駆テ西片町ニ帰ル 麦酒, ブタウドン,
ナラヅケ, 等ノ馳走ニ受ケ心愛上見ニ些カノ金ヲ
借リ十一時半頃一寸シラベ者ニカヽリ日記ヲ
録シ十二時半ニ就ク.

Copyright 日本建築学会



七日(火)

午前上野行。国定氏と食事し懇談スル所アリ且ツ博物館一件モ二三日中ニ決定スベキヲ聞キ大ニ安心スル所アリ午後ハ一心ニ取調ヘニ従事ス
日暮ヨリ武氏ヲ訪フ氏ハ今後名古屋ヘ向ヲ出発スル由ニ付キ話キタルナリ 次ヲ氏ヲ辞シテ三宅恵輔氏ヲ訪フ氏ハ会ウ「スレ」ヲ聴ケモリ然シ思ハラス然シモ面ヲ賞ナラス中等ニ似テ非ナリ 帰宅見リ一時ヨリ九時氏ヲ辞シテ兄ヲ大学ニ訪フ懇談スルヿ一時ヨリ Wein & Caffee 店ニ行キ語シヲ交ル 彼シ思フヨリハ敏腕アリ彼ハ「マメ」ニ天ヲ感リ演説ナドシテ目下熱ヲニ名声ヲ博セントヲ勉メリ世ノ行ケバ後来ヲモヲキ収益アラン 余ノ如キハ未タ大ナル収益ヲ得ラレザルナラン十時過キ去ヲ故郷ヲ懐ヒ買物ヲ調ヘ午四十分當ニ帰ヲ少シヲ取調ヘナーヲ床ニ付キタリ。

Copyright 日本建築学会

十二日(日) T. E.

午前田中苗を御氏宅訪ス氏ハ昨日東川町ヘ移動セ
ラレトソ 余ハ美ツ車ヲ駆シテ青山南町ヘ馳セ返
ル重成氏ヲ訪ヒ 微兵ノ事ニ関シテ懇談スルヲカネテ
去テ山下楼次郎氏ヲ訪フニ不在ナリ 留ハガキヲ得テ
渋谷西片町ヘ帰リ見ト共ニ今日ノ講演会富谷ヘ赴キ
ス欠席スルモノ三名, 中山 西氏ナリ. 立時ヨリ富ノ座ノ酒
肴ヲシテ皆ノ住境ニ入ル那珂大ニ余ノ講演スル所アリ
山岡氏大ニ余ノ難スル所アリ 蓋シ余等是日議
会ニ長飲セシノ故ヲ以テ余等中毒カと余等ノ肯シト
セサルモノアリ 田中鶴 大内怪シ 那珂忌シ 山岡
慍ル. 中村 嗔シ 永堂 詩カル. 江原之ヲ憂ト称
見之ヲ恐レ 余即ハチ之ヲ如何トモスルヲ能ハサルナリ.
興長キ頃校長二ヲ聘テ歌ヒ且ツ舞フモノハ即チ江
原ナリシ 蓋シ予ハ之ヲ利用テ他ヲ利用スヘキヲ
知ラサルナリ. 故ニ然カラ相ヒ聘請セリ 田中永堂ノ
間ニ起ル. 諸子孔次ヲ敬シ余ト江原トハ時務ヲ説ク
余外相不便蓋シ余他ノ一大子面目ナリ 帰宅一小店
ニ少飲シ二時半帰ル 疲ル所ナリ. 解事ハスマシキモノ
ハ甚多シ 楽サナレ 況ンヤ余他ノ席上一種愛
妙接刺スルモノアリテ 円滑婉曲ヲ欠ケリ. 難事難
余浮世ノ難ヲ知ルル哉.

Copyright 日本建築学会

十二日(月) 太.4.

昨夜ノ歓歌ツノ効ヲ奏シテ宿酔セリ午前ハ勉強モ不振ナ今ニツカズ午後大学ニ赴キ上野ヲ漫歩シ西片町ニテビール一ノ馳走ヲ受ケ日暮里ニ帰ヲ急ツ山岡ヲ訪フ不在ナリ去テ那珂ヲ訪フ亦不在ナリ去テ真水ヲ訪ヒ次ニ三宅ヲ訪ヒテ来レバ為当ナ江原氏昨日ノ約ヲ踏テ余ヲ訪ヘリ余ハ実ニコノ約ヲ失念セシガ思ヒ煩ハル後悔シナガラ直チニ氏ノ宿ニ一通ノ詫ノ去テ山岡ヲ訪フ山岡ハ余カ彼ニ一言ヲカリテ去レル式ニ又復シタルヲ攻撃シ急電報ヲ以テ催促シコト迫ラタルノ正直ハ又氏ノ強強ニヨレバ今日田中,中山,那珂,山岡ノ四人会合シテ畢々昨夜ノ不始末ヲ責メ田中ハ中ニモ痛論シテ江原ト余ノ勉ニ強ニ講強会ノ解散ヲ主張スルニ至リ,中山,那珂之ヲ賛成セリ云々,余之ヲ聞テ心中窃カニ心挑セリ今トナレバ余ハ実際迷惑江原ト絶交セリ,江原ハ実際義妹ヲ主張セリ,彼ハ余ノ多数ヨリ納レラレズ今日ノ事アル決シテ今日ニ始マルニ非ザルナリ,心中他ナシテ実ハ強テ勉強一番十二時ニ寝ニ就ク。

Copyright 日本建築学会

十四日(火)九月

行李荷物発送、同氏ト共ニ博物館ニ赴キ諸職員ト和歌浦ノ接待ヲナス、正午家ニ帰リ昼ノ午後大学ニ赴キ山下ノ俳句ヲかゝ書三冊ヲ借リ受ケ夫レヨリ田中ヲ訪ヒテ彼カ先夜ノ命ニ関スル頂ヲ叩ク彼レハ頑トシテ解散頂ヲ主張ス、蓋シ江原ヲ拘シサルモノニイロスタリ、次ヲ田中ノ俳句ニヨリ後夕暮ヘ赴キ和田ヨリ絵計画絵書冊ヲ取リ出シ之ヲ田中ニ貸与ス、五時山下院氏ト共ニ行ス久シブリニテ江原ヲ訪フノ楽ハシハ閑談スルノ絶ハス余ハ直チニ江原ヲ訪フ江原余ヲ三日振ニ待テリ由ヲ申欲シテ大ニ喜ヒスル所アリ、江原ハ辞職セント云ヒシカ強ツテ命令書原稿ヲ取レリ、彼ハ大ニ煩悩悲憤セシカ其云フ所一々余ハ肯ク得タリ、命令豈一江原ヲ拘ハ絶ハサル矣、命令豈一場ノ藝妓ヲ拘ハ絶ハサル矣、影ノ如ク命令ハ余カモ其類毋シカラサルヲ覚ス、余ハ亦タ江原ト共ニ怒ヲ掛ケントセシカ其類ナラサルヲ以テ已ム、江原ト分レテ夜ハ外ニ食ス二円ヲ猪俣ニ大学ニ赴キ兄ニ食ヲ与ヘ今日ノ欠末ヲ説シ第ヲ食ス拾銭ヲ借リ十一時半ニ帰リ少シク勉強シテ寝ネタリ。

Copyright © 日本建築学会

十七日(水).

午後美術学校、帰宅区役所に寄り徴兵
分仲し関して同じ所あり、次で昨日出かけ残りの
外二名の見時に寄へ郵便又、帰宅、国民新聞、修
帰、工学士笠井路と其位置を如何、正午家を出て
武氏に電話を発し博物館に赴きて取調べたり
あり、三時過ぎ日本橋に赴く蔦西氏を見たるより
氏不在即ち更に飯田町、氏宅を訪ひて強弱又
氏実に多用色家事多、演説番に当り余に代理を
依頼するより余大胆にも之を諾す去るより一御
坊を訪ひ不在より日暮家に帰り久しぶりにて神保
と将に義竹へ赴かんとす矢嶋氏妙来訪、那珂来
訪、中山来訪、珍客と居て談話スルに銭なし
堂上の樂を喫して帰る余中山と諸演会の関
スル意見を交換し彼し解先渚に其必ずや会を
存スルの要ナキを強き且つ一二会員の冷情を
嘆賞す或は江原を指スモノ如しと強弱ハ一
変して浮世流ヒ切七一時来宅去る、日記を認
メ二時半寝に就く。

Copyright 日本建築学会

十六日(木)

午前整理他ニ室内ノ大掃除ヲ行フ. 午後二時登校井上博士ノ講義ヲ聞ク家ニ帰レハ小田切氏来訪四方八方ノ消息ヲ聞キ日暮ル家見モ来訪セリ日暮色ヲ帯ヒ頃岡お嬢様氏来訪久シブリナルニ会ハ彼ノ酒場ニ雪ノ資ナク已ムナク柔果ヲ以テ間ニ合セツル代リニハ極メテ面白キ論説ヲ提出セリ両人ハ婦人文学上ノ論説ヲ闘ハシタリ. 両人ハ互ニ興ニ入レリ. 九時半氏帰ル 膝ヲ両片ツヨリ使来ル金直ナニ両片ツヘ赴キ見ニ逢フテ論説スル所アリ十時半家ニ帰リ十一時寝ニ就ク

十七日(金) 晴.

午前登校水子先生ニ逢ヒ大ニ上林氏ノ新宅ニ関シテ九論スル所アリ 今日工科大学会堂ニ逢ヒ兼テ清水ニ外ル結婚出費設費立替金ハ行ケスト聞キ非常ニ落胆シタリ. 午後博物館ニ赴キ少シク調査スル所アリ. 帰宅小児科ニ見ル所ヒ見ル所ヒ蛇ハ生計ノ艱難ニ苦悩四ト夕食ニアリ付キ沐浴一番快活ナシ建築設計ノ依頼セラル夕刻九時寝シタル. 雨第々然タリ. 勉強セス十一時寝ル

十八日（土）t. E.

午前病院建築計画ニ従フ七十一町病院ニ赴キ独々後次三時頃ノ帰リ船ヲフナス日暮家ヲ出テ先ツ石井部落ヲ訪ヒ次ニ玉田ヲ訪ヒ夕後ハ明日ハ遠足ヲ約シ度ケレヲ訪ヒ次ヲ家ノ帰リ宮島ト出遊シテ宮島ト女郎ヲ数度シ草鞋等ヲ買ヘ帰途ヲブ[illegible]ニ入ツテ一酌シ帰リテ寝ル。就テ珍夢アリ。

十九日（日）T. E.

午前六時ヲ起キ直チニ後ヲ基ヘ赴キ朝飯シ七時ヲ以テ我ヘテ出発ス途次後笑ヲ交ヘ渡アリ芝山内ヲ過キ品川ノ古戦場ヲ過キ大崎ノ八重園ニ上リ暫ク休息ス次ヲ蒲田ノ梅園ニ至ル八正午ナリトス即チ梅ヲ賞シテ午食ヲナス園中梅樹羅列スルアリ池水茅草面白シト雖モ却テ自然ノ趣味ヲ欠ク園ニ金剛石アリ知シテ人ヲ見セス余張テ見ンヲ乞ヒルルニ路ニ聞クス一時ヲ去テ矢口ニ至リ新田大明神ノ社ニ詣テ往事ヲ追懐シテ梅祭セス。矢口ヲ後ヲ小向井ニ至リテ乃チ梅林ニ入リ之ヲ賞ス花ノ開クモノアルナシ。去テ他ノ梅林ニ赴キ無数ノ梅樹畑中ニ散在スルニヤ似ル梅ノ過ヲ懐ケリ。去テ川崎ノ停車場ニ至リ四時二十五分発ノ汽車ニ乗リテ帰路ノ途ニ

Copyright 日本建築学会

五時過ぎ鉄道馬車ヲ駆ツテ万世橋ニ到リ停車場ニ上リテ疲労ヲ忘レ寛然ヲ防ク事ヲ数時ヲ消セントス。御供一渦ノ酒ヲ用ヒス流石硬剛無味強ント鉄石ノ人ノ如シ義人傳ニ在ルヲ之レニ押シト欲スレド許サズ余止ムヲ得ズ濁リ酒数杯ヲ飲ミ大醉トナリ喧嘩騒シ遂ニ倒レシ余ト全ク酒ヲ用ヒザル其病快復期ノ如ク少カラザルモノナランヤ遺憾ナリ。熟醉シテ家ニ帰リ直チニ寝ニ就ク其夕時々ハ[illegible]ス。翌朝余ハ其愛玩スル草履ノアラザルヲ知リ大ニ驚ケリ之ヲ彼樓ニ置失セシカ果タシテ之ヲ盗取ニ失セシカ茫然自失、然シ此余ハ未タ帰ラザル[illegible]

二十日(月)晴

午前勉強セントスルノ所ヘ牧四郎君来訪四方山ノ談話ス余ハ昨日約ヲ違シナガシ正午ニ至ル午後見ヲ行ヒ近所ヘ赴キ学校ニ至リテ大倉氏ヲ訪ヒシ時ヨリ牧氏ヲ伴ヒ帰宅ナル予ハヨリ牧氏ニ氏ヲ庫ニ到リ連リ昔流シテ遂ニ酒ヲ飲ミ遂ニ日暮家ニ帰リ食事終ル後一番起床シテ十一時ニ寝ニ就ク余近頃自ラ顧ミル余ハ大ニ獣慾ヲ増ニ来リ、大ニ酒色ヲ好ムモノニ似タリ。自ラ戒メザルベカラザル人自ラ慢ジ他人之ヲ侮ル謹ムベキ哉、今朝車夫家ハ草履ヲ提ヘ来ル余大喜ビ感謝ヲ与ヘテ之ヲ消ス。

Copyright 日本建築学会

二十一日(火) N.

午前美術学校午後博物館日暮リ田中来訪ノ中山来訪ノ帰ル中山同来訪スコレガ以前ヨリ忽チ大調高トナルベキ事ナレト医師ハコレ書ケレ一ハ余カコノ頃ノ疲ルヽコトヲ慮リ一ハ余カ農中学無ケレハ切ルノ苗床ニヨリ得ル山田ハ独リカ医師身体ノ不健ナル為ナリ十時帰ル余ハ西片町ヨリ十時ト十二時迄ニ就ク

二十二日(水). 曇. E.

午前美術学校ニ行ク大雪ニ赴キ来ル先ヒ金子上教授ノ遺骨ニ関シテ話セス夫レヨリ巡査ヲ訪ヒ之レカ寄留届ヲナシ弛田カ来ラノ電話ヲ待チ午食ヲ博物館ニ赴カントセシカ大学陸軍ノ兵ト衝突ニ暇トヲテ異ナス上野ニ赴ク途中ニ於テ大食堂ノ男ヒヲ見、自ラ不思議ノ時ノ音燈竜ヲ買ヒ帰宅同お菜屋ヲ訪ヒ大ニ文学談ヲナシ夫レヨリ山田ヲ訪ヒ中西ニ四円ヲ借リ田中ヲ訪フテ其中一円ヲ借ス余ハ今月位無ケレト金銭ヲ借クルハ十ヶ月ニ五回ヨリ多カラス夜食、雑誌博覧ト新聞ニ出ケヤブレテ一面シ帰リテ寝ル

廿三日（水）T. E.

午前博物館午後大學井上氏ノ講義休テヤリ山田ヲ訪ヒ見ヲ訪ヒ談論シテ五時家ニ帰ル 夕食後散歩ニ出カケ見ヲ漕ヒテ豊国家ニ赴キ飲食シ大ニ酔ヒテ家ニ帰リ寝ニ就ク

廿四日（金）R.

名解ノ気味アリ終日蟄居シテ外出セズ文學ヲ再ビ独ニ入リテ幹氏ト散歩ニ出カケ久振リテ世話ヲ買ヒ十一時寝ニ就ク天下泰平ニ堪ヘザル電報アリ十時見ヲ訪フ

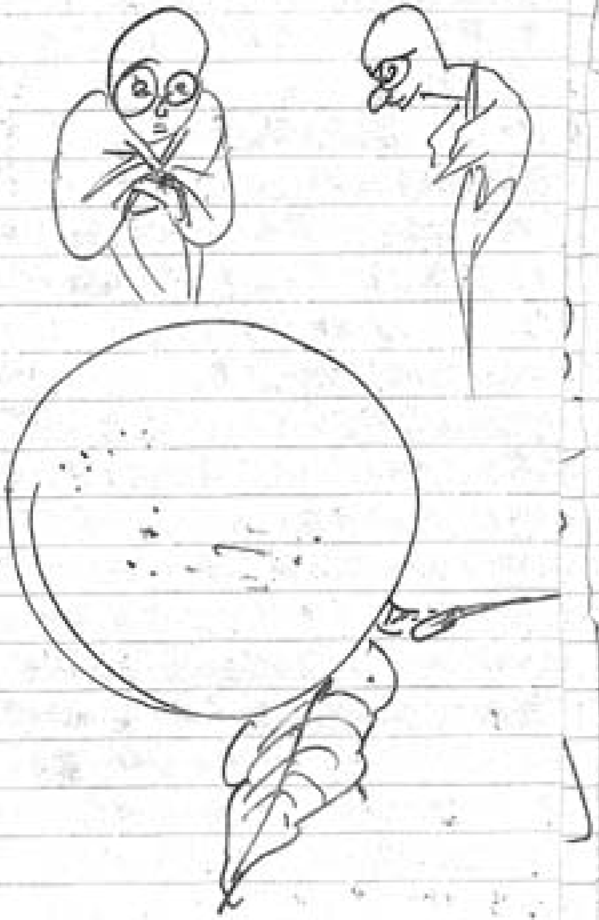
廿五日（土）T. A.

午前博物館午後醫ヲ訪ヒ散歩シ笑フ山田中西ヲ訪ヒ夕ヲ平田ヲ訪フ Gelb. 君ヤ日高君ト山田ヲ訪ヒ談論ヲ試ミ、ボルト、外一個ヲ食餌シ十時家ニ帰リ夫ヨリ食ヲ喫シ十一時寝ニ就ク

廿六日（日）T. E.

早朝私ハ小ヨーカンヲ提ヲ林氏次郎氏ヲ訪ヒ微兵一伴シテ花柳ノ所アリ次ヲ芳氏ヲ訪ヒ夕ヲ豊国ヲ訪ヒ夕ヲ山田ヲ訪フ叔父気ガ悪シト聞ク為ニ叔母ヲ慰ム此ヲ五ツ所アリ午後ニ帰リ Müller gehen 墓ニ外出云々ノ話ヲ聞キ帰宅セズ一泊シ十一時寝ニ就ク 諸君ハ集リ賜ヘ又時々家ヲ留守ニシタ如何？

Copyright 日本建築学会



五日(日)大. 正.

早朝起キタレバ天気快晴ナリ八時十五分逗子発鎌倉ニ着ク先ヅ中尊寺、妙本寺、光明寺ヲ見材木ノ通リ長谷ノ三橋ニ赴キテ諸氏ト会セントス諸氏ハ八幡前ニ陣シ[illegible]リ会セズ。余独リ二盃ヲ傾ケ快ヨク食事ス愉快ハ給仕セル可憐ノ女子トノ話ニ起レリ。去テ長谷ヲ見、大仏ヲ見、夫レヨリ浄智寺円覚寺、建長寺、八幡宮、浄明寺ト巡視シテ足痛ミ腹空シ六時ステーションニ着スレバ三橋、大隅、池田、野村、ノ四氏ハ既ニ共ニ帰京ノ途ニ就ク予等ハ八時過ナ新橋着直チニ銀座ノ牛店ニテ牛鍋ヲ食シ快飲放談シ実ニ五人ノ旅費ヲ弁シ帰途ニ向フ余ハ猶ニ諸氏ト共ニ徒歩シ本郷ニ至リテ青木堂ヲ叩キ麦酒及ビ白酒ヲ飲ミ十一時半家ニ帰リ十二時寝ニ就ク。鎌倉ノ温和ハ東京ノ冷寒ト急変シタリ。快ニ愉ヘタル鎌倉ノ山水ハ直ニ弱タル本郷ノ象府ト急変シタリ。今夜ノ夢果シテ何ヲ見ル乎。

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

Copyright 日本建築学会

明治二十五年十一月
十六日より

浮世の旅

明治二十六年三月
五日まで

Copyright 日本建築学会

統

統

M.25.11.16 ～
M.26.3.5

(挿図多数)

Copyright 日本建築学会